

絵図を用いた歴史的景観の復元

大阪工業大学大学院 学生会員 ○中司涼介
 大阪工業大学 正 会 員 吉川 眞
 大阪工業大学 正 会 員 田中一成

1. はじめに

わが国では、戦後復興期と高度成長期における生産性重視の都市基盤整備が行われ、豊かな社会が形成された。しかし、その反面として古来より存在する山並み、河川等の原風景が失われつつあり、さらには現代の都市空間と歴史的建造物が共存できない状態となっている。

その反省より、2004 年に美しく風格のある国土の形成・潤いのある豊かな生活環境の創造および個性的な地域社会の実現を図るため「景観法」が制定された。また、2008 年 1 月には「歴史まちづくり法」が制定され、歴史環境を保護から保全、さらにはもとの位置・形態に甦らせる復元へコンセプトがシフトしつつある。

一方、高度情報化社会となった現在、空間情報技術も急速に普及し、地理情報システム (GIS : Geographic Information System) の利用がより身近になっている。歴史に関する研究においても、情報のデータベース化、歴史的景観の把握など、GIS が有効なツールとして活用される素地ができている。

2. 研究の目的と方法

歴史環境の保全と復元をテーマとして都市デザインを行うためには、その地域固有の文化や歴史を読み解き、歴史的景観を明らかにする必要がある。本研究では、大和と呼ばれ平安遷都以前は歴代の皇居のあった地方、現在も数多くの歴史的建造物・寺社仏閣が残されている奈良県を対象とする。江戸時代に描かれた景観図、絵図を読み解き 3 次元復元モデルを構築し、さまざまな視点から歴史的景観を分析・把握している。

具体的な研究方法として、GIS や CAD/CG に代表される空間情報技術を統合的に活用し、空間把握を行っている。広域的な観点からは、近世に描かれた名所分布の把握、さらに名所と街道との関係性を明らかにする。また、ホットスポット分析により景観図に名所として数多く描かれている範囲を抽出する。抽出を行った範囲を、詳細な対象地として、三次元復元モデルを作成することで、現代との景観対比、当時の人々が見ていた景観を明らかにする。

3. 大和国

奈良県の旧国である大和国は、周りを山々に囲まれており、内陸部に位置していることから、当時から港を利用した移動・商売は不可能であった (図 1)。そのため、商売と集落を発展させていくために陸の交通網である街道が発達した。他国とつながっている街道が、主要街道だけでも 10 街道あり畿内の通り道となっていたため、当時人々の行き来が激しく、商家町、宿場町等がにぎわっていたことが窺い知れる。

近年では、平城遷都 1300 年祭があり、平城宮跡大極殿復元や当時の寺社仏閣、さらには江戸時代からの歴史的町並みの観光地として注目を浴びつつある。



図 1 大和国

キーワード 景観図, 歴史環境, 三次元復元モデル

連絡先 〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮 5-16-1 大阪工業大学 TEL 06-6954-4083

4. 名所と街道の位置関係

名所と呼ばれる位置を地図上に定位するために、当時の名所がまとめられている大和名所図会（寛政3年 秋里籬島、竹原春朝斎）と南都名所集（延宝3年 太田叙親、村井道弘）を使用する。これらは江戸時代の観光ガイドマップとして刊行され、漢字には読み仮名を付けてあり地位の高い人だけでなく、一般庶民にも読めるよう親しみやすく作られている。主に名所として寺社仏閣が書かれている。この2種類の史料（景観図合計 241 点）を取り上げ、位置情報を付与し GIS 上に定位した。また、当時の主要な街道の位置を把握し、名所の位置と重ね合わせた（図2）。街道沿い、街道の結節点に名所が集中していることがわかる。

とくに名所が集中している添上郡西部（現在の奈良市）、興福寺、東大寺周辺に注目した。この場所は、大和国南部・山城国・河内国と通ずる街道の結節点であり、奈良時代から続く寺社仏閣が多く存在している。

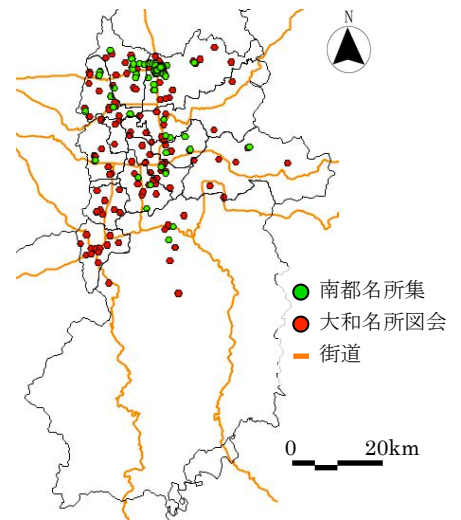


図2 名所と街道

5. 景観対比

近世の三次元復元モデルを作成するにあたり、興福寺、東大寺周辺の地形を作成する必要がある。道路、宅盤が現代と変化している場所があるため、広域で描かれている大和名所図会と加太越奈良道見取絵図を読み解き GIS 上に定位をしている。

三次元復元モデルを作成することで、景観図と同じ視点を設定し、景観図に何が強調されて描かれているか、江戸期の人々がその景観図を描く際、どの場所に重きを置いているのか把握することができる。さらに、さまざまな視点を設定することが可能で往時の町並を比較的に忠実に再現することが可能である。現代と同一の視点場に視点を設定することで、江戸期と現代の景観対比を行うことができる（図3；図4）。また、景観シミュレーションを行うことで、江戸期でも興福寺の五重塔はこの町のランドマークであったことが分かる。時代を経て、町並みは大きく変化したけど、江戸期と同じように興福寺の五重塔が眺められ、現在も興福寺の五重塔はこの町のランドマークである。



図3 町から見た興福寺



図4 現代の町から見た興福寺

6. おわりに

(1) 結果と考察

近世の景観図を用いることで、大和国の名所を確認することができた。また、街道と名所の位置を重ね合わせることで街道と名所は、大きく関係していることを把握した。さらに、史料と空間データを活用して三次元復元モデルを構築することで、当時の景観と現在の景観を比較することができた。

(2) 今後の展開

三次元モデル化の範囲を広げ詳細な対象モデルを拡充することで、より精緻な景観シミュレーションへ展開していきたいと考えている。

参考文献

- ・奈良県立図書情報館：南都名所集 <http://opacsvr01.library.pref.nara.jp/mylimedio/top.do>
- ・早稲田大学図書館古典データベース：大和名所図会 <http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html>